

堀江中学校 校長室だより

令和7年度 No.42

さくら



令和8年2月16日(月)

一隅を照らす

日々の生活の中で、さまざまな迷いや悩みが生じることがあります。そんな時、大切なのは、確かな自分をもっているかどうかです。そのためには、日頃から、正しい物の見方・考え方を自分の中に養っておくことが肝要です。それでも、人間ですから迷ったり悩んだりします。

お釈迦様が亡くなる前に、弟子たちに次のように教えました。「自分自身を灯火(ともしび)とし、法(フッダの教え・真理)を灯火として生きよ」。これを、それぞれ自灯明(じとうみょう)、法灯明(ほうとうみょう)といいます。法灯明は迷ったときの道標となります。

宗教や哲学といった思想は、私にとっての法灯明のひとつです。この原稿を書いている土曜日の午前中、思うところがあり、天台宗のホームページを見ていました。天台宗は、平安時代に最澄が開いた仏教の宗派です。

このホームページで、私の目に飛び込んできたのは「一隅を照らす」という言葉。説明が加えられていました。「一隅とは、今、あなたがいる、その場所です。あなたが、あなたの置かれている場所や立場で、ベストを尽くして照らして下さい。」

生きているかぎり、さまざまな出来事が身の回りで起こります。自分にとって都合の良いことや悪いこと。楽しいことや辛いこと。私たちは、それらのすべてと向き合っていかなければなりません。

私たちにとってより良い生き方は、周囲(社会)の現状を嘆くのではなく、自分自身が温かな心遣いを發揮して、身近な「一隅」を照らす存在になることです。そうすれば、皆さん目の前の霧は、徐々に晴れていきます。また、このことを、社会の多くの人が実践することで、社会全体が明るく輝き始めるのです。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

